

## 25年度 自立支援協議会 議事録

会議	部会名	第 1 回	生活支援	部会	参加者数	34 人	会場	福祉まちづくりセンター 2F 大会議室
	日時	25 年 7 月 17 日 (水)	~	15:30				
主 テ ー マ	<p>1 今年度の活動計画について</p> <p>2 辰野アドバイザーより「生活支援部会に期待すること」</p> <p>3 検討会(グループワーク)</p>							
主 な 意 見 な ど	<p>1 について(畔上部会長より)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制度、住まい、日中支援など、他の部会に入り難い課題を対象とし、検討する。</li> <li>・原点にもどり、参加者の声を聞き、その中から出された課題について、年3~4回開催予定。</li> </ul> <p>2 について</p> <p style="margin-left: 20px;">上伊那圏域自立支援協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当初、「生活」・「療育」・「退院支援」・「就業」の4部会でスタートし、生活支援部会は、居住、制度・サービス提供者、重心・要医療的ケアの3グループに分かれて活動してきた。</li> </ul> <p style="margin-left: 20px;">「生活支援」の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「暮らし」を幅広く、弾力的に理解し、追求していく。</li> <li>・他の部会に属さない事柄、領域を扱う。具体的には、日中活動、夜間支援、余暇活動、住環境、食生活、健康、医療、金銭、年金、移動、社会参加などである。</li> </ul> <p style="margin-left: 20px;">今後への期待</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原点に戻り、近い将来を見越して継続的に考えていけるテーマ設定が大切である。</li> <li>・「生活」はその人の基本的立脚点。圏域全体に関係する事柄や他部会との連携による共同活動、さらには、他圏域の同部会との交流、「生活支援の手引き」作成なども考えられる。</li> </ul> <p>3 について</p> <p style="margin-left: 20px;">ファシリテーションについて(きらりあ 春日相談支援専門員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファシリテーションとは、「集団による知的相互作用を促進する働き」のことである。</li> <li>・ファシリテーションの基本を学び、グループワークやケア会等に活かしていただきたい。</li> </ul> <p style="margin-left: 20px;">検討会(グループワーク)</p> <p>5グループで、家族会、事業所、行政それぞれの立場から、部会の今後の方向性を検討し、発表。</p> <p style="margin-left: 20px;">家族会グループより</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援マップについて、紙ベースで確実にすべての当事者、家族に届くようなシステムがほしい。マップの定期的な更新も課題だと思う。</li> <li>・計画相談は、事業所に属していると進みやすいが、属していない方々にどう説明し、利用に結びつけるか考える必要があるのではないか。</li> <li>・移動支援は、車の移動のみで、病院の玄関から先は、支援してもらえない現状がある。制度のはざまに困っている人たちをフォローできないか。運転者の高齢化や人員確保も課題と感じる。</li> <li>・在宅の障害者の家族が急な入院等で長期的介護ができなくなったときの支援体制が曖昧であり、計画相談に盛り込むなど対応をお願いしたい。</li> </ul> <p style="margin-left: 20px;">事業所グループより</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援員として、生活に関して、今後さらなる知識や制度の認識を深めていきたい。</li> <li>・いろいろな資源を持ち、連携していくことが大切。そのまとめ役、要の人がいないのが問題。</li> <li>・住まいへの不安を持つ家族が多い。グループホームに頼りたいが、建設が進まないのも課題。</li> <li>・事業所では事業内容に限られる。A型なら就労支援がメインで生活支援にまで手が回らない。</li> <li>・相談支援のケース検討ができるとういのではないか。</li> <li>・社会資源の情報がほしい。一覧表でよいので、紙ベースのものがありがたい。</li> <li>・新しい事業所の情報提供がほしい。また、統一された窓口もほしい。</li> </ul> <p style="margin-left: 20px;">行政グループより</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画相談を26年度末までに完了しなければならない。大変重要な課題であり、8月には関係者を集めた会議を開くなどして、今後の対応を協議していく予定である。</li> <li>・上伊那圏域の公共交通のあり方も課題である。学校や事業所への通所のための交通手段をどう確保していくのかも検討を要する。</li> </ul>							
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原点に立ち返り、今後の方向性をグループごとに討議した。結果を今後活かしていきたい。</li> </ul>							
次 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詳細は後日お知らせする。</li> </ul>							

## 25年度 自立支援協議会議事録

会議	部会名	第2回 生活支援 部会	参加者数	28人	会場	福祉まちづくりセンター 2F 大会議室
	日時	25年 11月 26日(火) 13:30 ~ 15:30				
主 題 マ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 前回行われたグループワークから</li> <li>2 今年度指定を受けた事業所の紹介</li> <li>3 事例検討 「権利擁護の視点からみた生活支援 ～『想いのずれ』の気づきからの再スタート～」</li> <li>4 その他</li> </ol>					
主 な 意 見 な ど	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 について(畔上部会長より) <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回部会では、家族・事業所・行政それぞれの立場から課題を話し合うグループワークを実施した。(詳細については、第1回生活支援部会議事録を参照)</li> <li>・本日は、前回出された課題の検討と、新事業所の紹介と事例検討の学習会を行う。</li> <li>・今後も社会資源の情報提供等、随時行っていく予定である。</li> </ul> </li> <li>2 について <ul style="list-style-type: none"> <li>・5つの法人等より新規事業の紹介あり。概要は次のとおり。</li> <li>(1) 社会福祉法人 アンサンプル会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・25年度は、多機能型施設 アンサンプル伊那第 1、 ショートステイ・アンサンプル、 相談支援事業所 アンサンプル伊那 を開設。</li> <li>・ は、生活介護・就労継続支援B型・就労移行支援の多機能型事業所で、定員は40名。</li> <li>・ は、伊那第4ホーム(グループホーム)を開設し、放課後等児童デイと合わせ、伊那養護学校在籍者を対象に実施している。定員10名。</li> <li>・現在、地元産ヒノキ間伐材を利用した新製品づくりにも取り組んでいる。</li> <li>・26年3月末には、新たなグループホームもオープン予定である。</li> </ul> </li> <li>(2) 上伊那生協病院(上伊那医療生活協同組合) <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月より医療型短期入所サービス(空床型)を開始。現在、2名が利用。さらに1名の利用希望あり。</li> <li>・対象者は障害者サービス受給者証に短期入所の支給決定を受けている身体障害児・者。</li> <li>・利用手順は、新規短期入所申込 入所判定 利用可否決定 入所利用申込 利用決定・利用日程のお知らせとなる。</li> </ul> </li> <li>(3) 社会福祉法人 辰野町社会福祉協議会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・9月より指定特定・指定一般相談支援(移行・定着)事業を開始した。</li> </ul> </li> <li>(4) 社会福祉法人 親愛の里シンフォニー <ul style="list-style-type: none"> <li>・「シンフォニー」と「夢工房」が、それぞれ単独の事業所となり、10月より運営を開始した。</li> <li>・ は、就労継続支援B型事業所で定員20名。上伊那圏域を対象に、生産活動、職場実習、求職活動、職場定着支援のほか、職員によるSST研修等もスタート。OJT推進員派遣事業も受託している。</li> <li>・ は、多機能型事業所で定員20名(生活介護14名・自立(生活)訓練6名)。上伊那圏域を対象に、生産活動、介護・健康管理、外出・交流・創作・文化・運動等の活動を実施。現在、入浴設備はない。</li> <li>・ ・とも、10月より送迎サービス(1回 50円)をスタートしている。</li> </ul> </li> <li>(5) 株式会社 ストック(資料提供のみ) <ul style="list-style-type: none"> <li>・居宅介護・重度訪問介護(身体介護、家事援助)、同行援護、行動援護、移動支援を実施している。</li> </ul> </li> </ul> <p>*25年度の新規事業登録事業所一覧表等は、きらりあホームページでも確認可能である。</p> </li> <li>3 について(きらりあ 唐木就業支援ワーカーより) <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援を横断的に検討する学習会として、支援者と利用者の想いのずれに気づくことで支援がうまくいき始めた事例の紹介が行われた。</li> <li>・知的障害のある親子3人(60代父母・30代娘)の生活支援と成年後見につなげるまでの経過と現在の様子について、事例概要と支援経過の説明。(略)</li> <li>・初心に戻ってアセスメントをする中で、見えていなかったこと、見ようとしなかったことが見えてきた。</li> <li>・見方を変える。「今よりいい生活をしてほしい」「今のままでいい。ありのままを認めて、支える。」</li> <li>・障害のある方を地域で支えるということ <ul style="list-style-type: none"> <li>1人では、または1つの機関では支えきれない場合が多い。ネットワーク・チームワークで支える。フォーマル、インフォーマルな資源を活用し、何かあったらケア会議、何もなくてもケア会議。ケア会議は大切である。</li> </ul> </li> <li>・質疑応答(略)</li> </ul> </li> <li>4 について <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットによる事業所検索サイトについて(伊那保健福祉事務所 山崎主事より)</li> <li>独立行政法人 福祉医療機構の「ワムネット(WAM NET)」で事業所検索が可能である。</li> </ul> </li> </ol>					
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定を受けた事業所の紹介と事例検討学習会を通して、生活支援のあり方を考えるきっかけとなった。</li> </ul>					
次 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詳細については、後日お知らせする。</li> </ul>					

## 25年度 自立支援協議会議事録

会議	部会名	第3回 生活支援部会	参加者数	20人	会場	福祉まちづくりセンター 2F 大会議室
	日時	26年3月7日(金) 13:30 ~ 14:45				
主 テ ー マ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 今年度の活動について(振り返り含む)</li> <li>2 生活支援部会の「運営・生活委員会」(仮称)への発展的転向について</li> <li>3 意見交換</li> <li>4 その他</li> </ol>					
主 な 意 見 な ど	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 について(畔上部会長より)               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)今年度の活動について                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回は、皆さんのニーズ把握のため、家族会、事業所、行政等に分かれ、グループワークを実施した。</li> <li>・第2回は、グループワークを受け、新たな事業所の紹介と事例発表を中心に企画・実施した。</li> </ul> </li> <li>(2)反省と今後の課題について                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな立場から多様な意見が出る中で、共通の活動目的や課題を焦点化する難しさを感じた。</li> <li>・他部会で検討した方がよい課題もあり、本部会のあり方や立ち位置を考えさせられる1年間だった。</li> </ul> </li> </ol> </li> <li>2 について(辰野アドバイザーより)               <p>生活支援部会の「運営・生活委員会」(仮称)への発展的転向についての提案が行われた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)背景                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・上伊那圏域地域自立支援協議会の課題として、次の2点が考えられる。                       <ol style="list-style-type: none"> <li>ア 圏域全体の課題について検討する部署(部会)がない。</li> <li>イ 圏域の自立支援協議会をどのように運営していったらよいかを扱う部署(部会)がない。</li> </ol> </li> <li>生活支援部会を「運営・生活委員会」(仮称)へ発展的転向することで、これを解消できないか？</li> <li>・生活支援部会は、各部会の基底を担うもっとも重要な位置を占め、多岐にわたる機能が求められている。</li> <li>・課題の多様化に対応するため、幾つかの部会を新設してきたが、依然として「生活」という課題の焦点化は難しく、広く圏域全体を見渡し、情報収集、整理する機能を持たせる必要があると思われる。</li> </ul> </li> <li>(2)具体的な考え方(方向性)                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・「運営・生活委員会」(仮称)が果たすべき役割としては、次のようなことが期待される。                       <ol style="list-style-type: none"> <li>ア 圏域全体の情報把握に努める</li> <li>イ 課題を整理する</li> <li>ウ 解決するための方法や解決する部署(部会)を検討する</li> <li>エ 該当する部会に課題を下ろしていく</li> </ol> </li> <li>・生活支援部会の基底の流れを引き継ぎながら、活動を第2段階へステップアップさせていったらどうか。</li> </ul> </li> <li>(3)26年度について                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・役員等は25年度を継承しつつ、部会としての方向性をご検討いただきたい。</li> </ul> </li> </ol> </li> <li>3 について(参加者全員)               <p>辰野アドバイザーからの提案も踏まえつつ、参加者全員より部会の感想をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・解決が難しい圏域全体の課題や意見を集約し、俯瞰的に議論できる場、受け皿として今後も機能してほしいと思う。</li> <li>・住まい、医療、福祉、介護、行政等との包括的連携が大切。全体会以外にもこうしたとりまとめを行う専門委員会は今後必要になってくるのではないかと。</li> <li>・発展的転向で部会活動がさらに活発になり、暮らしやすい地域にしていけたらと思う。</li> <li>・提案の方向で進めていったらどうか。圏域全体の事業所見学ツアーの企画等実現したらうれしい。</li> <li>・何でも話せる場、全体を見ながら問題をとりあげてもらえる場も自立支援協議会には必要と感じている。</li> <li>・さまざまな立場のより多くの方々が出席できるような雰囲気づくりを引き続き大切にしてほしい。</li> <li>・移動支援や1か所での支援が難しい方のローテーション支援のあり方などを検討してほしい。</li> <li>・まずは生活支援の定義、目的を明確化してほしいと思う。そうすることで参加しやすくなるのではないかと。</li> </ul> </li> <li>4 について               <ul style="list-style-type: none"> <li>・新事業所のお知らせ(きらりあ 春日より)</li> <li>伊那のニチイケアセンターが、2月より駒ヶ根にも事業所を開設することとなった。</li> </ul> </li> </ol>					
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「運営・生活委員会」(仮称)への発展的転向も視野に入れながら、今年度の活動の総括と来年度の方向性について、意見交換することができた。</li> </ul>					
次 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、3回の部会を開催してきた。多くの皆様のご参加、ありがとうございました。</li> <li>・来年度も、引き続き積極的なご参加をお願いいたします。</li> </ul>					